

CBCT を用いた透析シャント血管描出の試み

【背景・目的】人工透析を受ける患者数は年々増加している。それに伴い、透析シャントの開存評価を目的とした血管造影検査や血管形成術も増加している。しかし透析シャント血管は蛇行や瘤が形成されることが多く、二次元的な血管造影検査では十分に評価できないことも多い。そこで我々は、透析シャント血管の開存評価を目的としてCBCTを用いた三次元情報の取得方法を考案した。手法や利点、欠点について報告する。【方法】患者体位は検側を下垂し、非検側を挙上した。撮影開始時間は直前に撮影したDSAを用いて決定した。CBCT撮影モードは収集角度200度/6sec, Angulation step0.5度/Frameとした。造影剤注入は自動注入器を使用した。造影剤は300mgIを二倍希釈し2.0ml/secで注入した。【結果】MIPやVRを作成することで三次元的な位置関係の把握が容易となった。またMPRで任意断面の観察が可能となり高度な狭窄部の同定が可能となった。DSAに引き続き撮影を行うため血管外漏出などのシャントトラブルを事前に予測できる、10ml程度の造影剤で撮影が行えるといった利点もある。しかしC-armの回転半径が狭く撮影範囲も限りがあるため、患者の体格や体位に制限があることも分かった。患者の固定法などの手法について検討する必要がある。【結論】CBCTを用いた透析シャント血管三次元情報の取得は臨床的に有用であった。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号